

三重県経済の現状と見通し < 2020年6月 >

1. 景気判断 一覧表

部門	個別項目	基調判断(方向等)	基調判断の 前月との 比較(注1)	水準評価 (注2)
		詳細		
総括判断	景気の現状	<p>厳しい状況にある</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大に伴う経済活動の自粛により、雇用が減少しているほか、企業活動や外需も下振れしており、厳しい状況にある。</p>	→	
	当面の見通し	<p>厳しい状況が続く見通し</p> <p>緊急事態宣言は解除されたものの、経済活動の回復には時間を要するとみられ、厳しい状況が続く見通し。</p>	→	
家計部門	個人消費	<p>弱い動きがみられる</p> <p>大型小売店販売額(全店ベース)は、4か月連続の前年比増加</p>	→	
	住宅投資	<p>弱含み</p> <p>住宅着工戸数は、2か月連続の前年比減少</p>	↘	
	観光	<p>厳しい状況にある</p> <p>県内施設延べ宿泊者数は、8か月連続の前年比減少</p>	→	
	雇用・所得	<p>弱い動きが広がっている</p> <p>有効求人倍率(季節調整値)は、9か月連続の前月比低下</p>	↘	
企業部門	企業活動	<p>減少している</p> <p>鉱工業生産指数は、14か月連続の前年比低下</p>	→	
	企業倒産	<p>悪化しつつある</p> <p>倒産件数は、2か月連続の前年比減少</p>	→	
	設備投資	<p>弱含み</p> <p>非居住用建築物着工床面積は、2か月連続の前年比減少</p>	→	
海外部門	輸出	<p>大幅に減少している</p> <p>四日市港通関輸出額は、6か月連続の前年比減少</p>	↘	
公共部門	公共投資	<p>弱含み</p> <p>公共工事請負金額は、2か月振りの前年比増加</p>	→	
その他	物価	<p>弱めの動き</p> <p>津市消費者物価指数(生鮮食品を除く)は、8か月振りの前年比下落</p>	↘	

(注1)「基調判断の前月との比較」は、基調判断の表現を前月と比べたもので、↗:上方修正、→:据え置き、↘:下方修正を示す。

(例えば、「回復」「減速」となれば下方修正、「回復」「回復」なら据え置き、となる)したがって、矢印は景気全体ならびに個別項目の方向感を示すものではない。

(注2)「水準評価」は、景気全体ならびに個別項目の水準について5段階で判断するもので、○:晴、|:晴~曇、☁:曇、|:曇~雨、☔:雨、を示す。

(注3)個別項目の見通しは、特に表記がない場合には先行き半年間程度の見通しを示す。

お問い合わせ先	三十三総研 調査部 佐藤
	電話: 059-354-7102 Mail: 33ir@miebank.co.jp

2. 個別部門の動向: 家計部門

個人消費	弱い動きがみられる	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	

現状

個人消費は、弱い動きがみられる。

個人消費の動向を支出者側からみると、4月の勤労者世帯消費支出(津市)は前年比 5.8%と2か月連続の減少(図表1)。なお、勤労者世帯可処分所得(津市)は同 +1.7%と8か月連続の増加(前掲図表1)。

個人消費の動向を販売者側からみると、4月の大型小売店販売額(百貨店とスーパーの合計額)は、全店ベースでは前年比 +3.8%と4か月連続で増加した一方、既存店ベースでは同 1.3%と3か月振りの減少。全店ベースを商品別にみると、衣料品(同 52.4%)が7か月連続の減少となった一方、飲食料品(同 +15.0%)や家庭用品(同 +10.8%)がそれぞれ5か月連続、3か月連続の増加。

5月の新車乗用車販売台数(含む軽)は、3,261台(前年比 48.5%)となり、前年比で8か月連続の減少(図表3)。車種別にみると、緊急事態宣言の発令に伴う来店客数の減少を受け、普通車(同 54.5%)、軽乗用車(同 55.6%)が8か月連続、小型車(同 30.5%)が2か月連続となる大幅減。

見通し

東海地域の現状判断DI(内閣府「景気ウォッチャー調査」)をみると、5月の家計部門の水準は17.5と4か月振りに前月(10.9)から上昇。ウォッチャーの声では、「休業要請は解除されたが、まだ心配で来店を控える客が割と多く、来客数は減少している」などの悪化が続いているといった声は多いものの、「緊急事態宣言の解除により、徐々に来客数が増えている」といった声も増加。また、2~3か月先の景気の先行きに対する判断DIについては、40.4と2か月連続の上昇。

先行き個人消費は、全国で緊急事態宣言が解除され外出自粛要請が緩和されるなど経済活動の正常化に向けた動きが始まっており、徐々に持ち直しに向かうとみられる。もっとも、感染再拡大リスクが残るなか、心理的な不安感が消費者の積極的な外出や購買行動を抑制するほか、雇用・所得環境の悪化が重石となり、緩慢な動きにとどまる懸念も。

4月 勤労者世帯・消費支出

309千円 前年比 5.8% (2か月連続の減少)

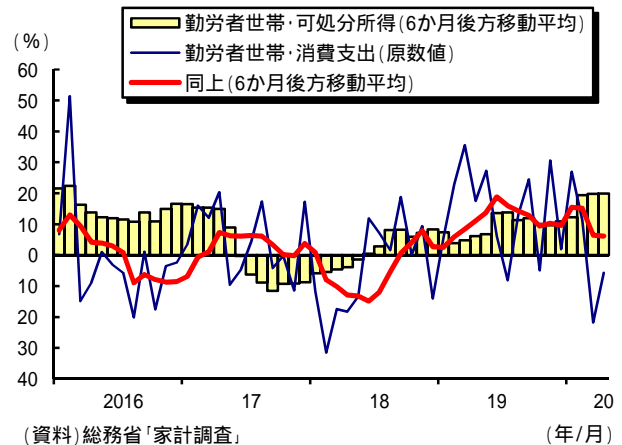
4月 大型小売店販売額

全店 前年比 +3.8% (4か月連続の増加)
 既存店 前年比 1.3% (3か月振りの減少)

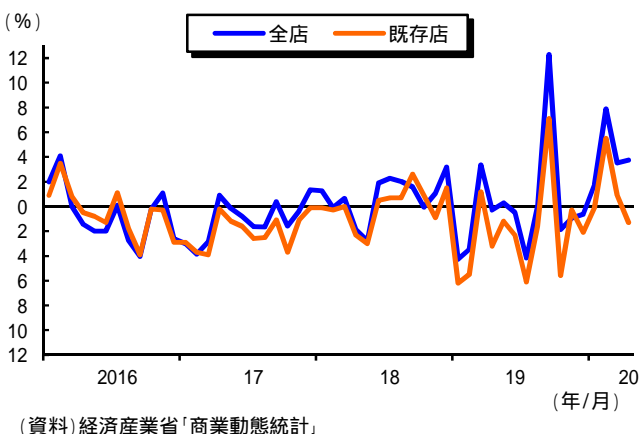
5月 新車乗用車販売台数<含む軽>

3,261台 前年比 48.5% (8か月連続の減少)
 ・普通車 963台 前年比 54.5% (8か月連続の減少)
 ・小型車 1,181台 前年比 30.5% (2か月連続の減少)
 ・軽乗用車 1,117台 前年比 55.6% (8か月連続の減少)

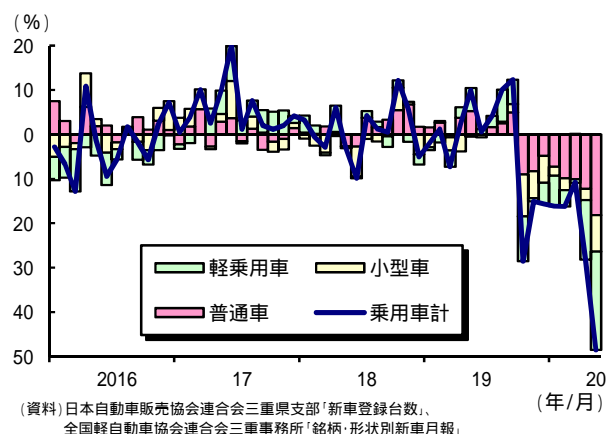
図表1 津市消費支出等<前年比>



図表2 大型小売店販売額<前年比>



図表3 新車乗用車販売台数<前年比>



住宅投資	弱含み	基調判断の前月との比較	↘																				
		水準評価																					
<p>現状 住宅投資は、弱含み。 4月の住宅着工戸数は、693戸(前年比 16.8%)となり、前年比で2か月連続の減少(図表4)。利用目的別にみると、分譲住宅(同+23.9%)、貸家(同+2.1%)がそれぞれ3か月連続、2か月振りに増加した一方、持家(同 17.4%)が7か月連続の減少。</p> <p>見通し 2019年10月の消費増税以降、持家を中心に弱い動きが続くなか、新型コロナウイルスの感染拡大を受けた外出の自粛や、雇用・所得環境の悪化を背景に、住宅取得マインドが一層悪化する懸念もあり、当面、住宅着工は緩やかな減少が続くと予想。</p>																							
<p>4月 住宅着工戸数</p> <table border="1"> <tr> <td>693戸</td> <td>前年比</td> <td>16.8%</td> <td>(2か月連続の減少)</td> </tr> <tr> <td>・持家</td> <td>前年比</td> <td>17.4%</td> <td>(7か月連続の減少)</td> </tr> <tr> <td>・貸家</td> <td>前年比</td> <td>+2.1%</td> <td>(2か月振りの増加)</td> </tr> <tr> <td>・給与住宅</td> <td>前年比</td> <td>98.8%</td> <td>(3か月振りの減少)</td> </tr> <tr> <td>・分譲住宅</td> <td>前年比</td> <td>+23.9%</td> <td>(3か月連続の増加)</td> </tr> </table>		693戸	前年比	16.8%	(2か月連続の減少)	・持家	前年比	17.4%	(7か月連続の減少)	・貸家	前年比	+2.1%	(2か月振りの増加)	・給与住宅	前年比	98.8%	(3か月振りの減少)	・分譲住宅	前年比	+23.9%	(3か月連続の増加)	<p>図表4 新設住宅着工戸数 < 前年比 ></p>	
693戸	前年比	16.8%	(2か月連続の減少)																				
・持家	前年比	17.4%	(7か月連続の減少)																				
・貸家	前年比	+2.1%	(2か月振りの増加)																				
・給与住宅	前年比	98.8%	(3か月振りの減少)																				
・分譲住宅	前年比	+23.9%	(3か月連続の増加)																				
		<p>(資料) 国土交通省「建築着工統計」 (年/月)</p>																					

観光	厳しい状況にある	基調判断の前月との比較	⇒								
		水準評価									
<p>現状 観光は、厳しい状況にある。 3月の三重県内施設延べ宿泊者数は、404千人泊(前年比 51.9%)となり、前年比で8か月連続の減少(図表5)。外国人宿泊者数については3千人泊(同 87.4%)となり、前年比で2か月連続の大幅減。</p> <p>見通し KDDIの調査によると、6月20日(土)の伊勢神宮周辺の人出は、昨年6月の休日と比べ 9.8%減と、前の週の 64.3%減から大きく回復したと発表。8月には国の「Go To キャンペーン事業」が実施される予定であり、県は独自で割引額を上乗せすることを検討するなど県内誘客促進に取り組んでおり、国内客は徐々に持ち直すことが期待される。もっとも、世界的には本格的な収束が見通せず、外国人観光客の持ち直しは期待できないことから、当面、厳しい状況は続く見通し。</p>											
<p>3月 県内施設延べ宿泊者数</p> <table border="1"> <tr> <td>404千人泊</td> <td>前年比</td> <td>51.9%</td> <td>(8か月連続の減少)</td> </tr> <tr> <td>・外国人</td> <td>前年比</td> <td>87.4%</td> <td>(2か月連続の減少)</td> </tr> </table>		404千人泊	前年比	51.9%	(8か月連続の減少)	・外国人	前年比	87.4%	(2か月連続の減少)	<p>図表5 三重県内施設延べ宿泊者数</p>	
404千人泊	前年比	51.9%	(8か月連続の減少)								
・外国人	前年比	87.4%	(2か月連続の減少)								
		<p>(資料) 国土交通省観光庁「宿泊旅行統計調査」 (年/月)</p>									

雇用・所得	弱い動きが広がっている	基調判断の前月との比較	↘
		水準評価	

現状

雇用・所得情勢は、弱い動きが広がっている。

4月の有効求人倍率(季節調整値)は、1.29倍(前月比 0.05ポイント)と9か月連続で低下し、2015年7月以来の水準に。新規求人倍率(季節調整値)も、1.76倍と大幅に低下(図表6)。

4月の新規求人数は、学卒・パートを除くベースで前年比 33.5%と9か月連続の減少(図表7)。業種別に見ると、製造業(同 55.3%)では、輸送機械(同 66.8%)、はん用機械(同 73.4%)、食料品(同 57.9%)などを中心にほぼすべての業種が減少。非製造業では、サービス業(同 40.1%)、運輸業、郵便業(同 36.5%)、医療、福祉(同 18.9%)などを中心に多くの業種が減少。

3月の所定外労働時間指数は、前年比 8.0%と6か月連続の低下。名目賃金指数(同 +3.0%)は3か月連続の上昇で、うち、きまって支給する給与(同 +1.9%)は15か月連続の上昇(図表8)。

見通し

東海財務局津財務事務所が発表した2020年4～6月期の「法人企業景気予測調査」によると、従業員数が「不足気味」と答えた企業から「過剰気味」を差し引いた従業員数判断BSIは 4.4と、約10年振りに「過剰気味」超に転じた。非製造業は40ポイント悪化の +1.3と不足気味が続いたものの、製造業が41.8ポイント悪化の 16.2と人手の過剰感が出始めている。先行きの雇用は、経済活動の完全な再開が見通せないなか製造業では需要減少などを受けた自動車関連を中心に求人を控える動きが続くほか、非製造業も自粛ムードの残存に伴う企業業績の悪化などにより、雇用は弱い動きが続く見通し。

所得については、企業業績の悪化が進むにつれて解雇に踏み切る企業が増加するとみられ、大幅に減少する可能性も。

4月 求人倍率<季節調整値>

有効求人倍率 1.29倍
前月比 0.05ポイント (9か月連続の低下)
新規求人倍率 1.76倍
前月比 0.33ポイント (3か月振りの低下)

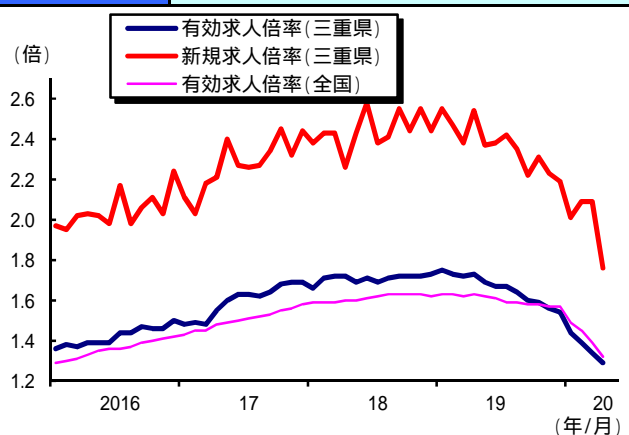
4月 新規求人数<学卒・パートタイム除く>

前年比 33.5% (9か月連続の減少)

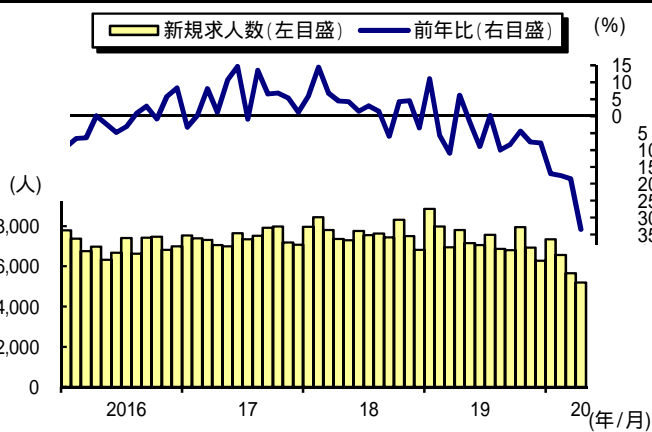
3月 労働時間・賃金指数<調査産業計>

所定外労働時間指数
前年比 8.0% (6か月連続の低下)
名目賃金指数
前年比 +3.0% (3か月連続の上昇)
きまって支給する給与
前年比 +1.9% (15か月連続の上昇)

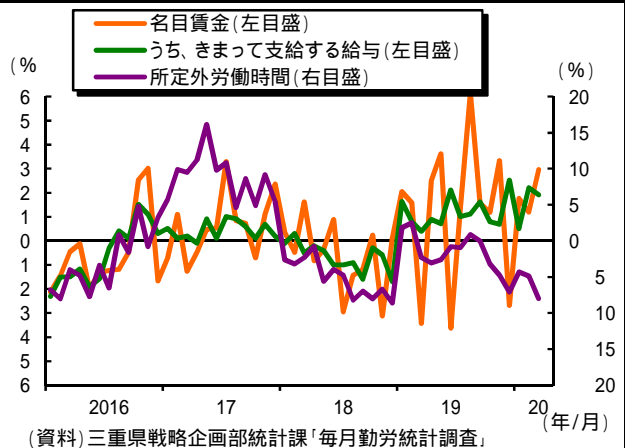
図表6 有効・新規求人倍率<季節調整値>



図表7 新規求人数<学卒・パート除く>



図表8 労働時間・賃金指数<調査産業計、前年比>



3. 個別部門の動向：企業部門

企業活動	減少している	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	
<p>現状 企業の生産活動は、減少している。</p> <p>4月の鉱工業生産指数は、前年比 7.7%と14か月連続の低下(図表9)。業種別にみると、電子部品・デバイス(同 +59.7%)が7か月連続の上昇となったものの、輸送機械(同 28.2%)が7か月連続の低下となったほか、汎用・生産用・業務用機械(同 30.4%)が9か月連続、化学(同 14.3%)が12か月連続で低下。</p> <p>見通し 先行き生産は、減少が続くと見込まれる。</p> <p>電子部品・デバイスについては、動画配信サービスを支えるデータセンター向けや在宅勤務浸透によるパソコン向けでメモリ需要が高まっているほか、5G関連需要も一段と拡大することから、持ち直しが期待できる状況。輸送機械は、新型コロナウイルスの影響で本田は7月も鈴鹿製作所の完成車ラインを停止すると発表するなど、世界的な需要減少を受けて、落ち込みが続くと予想。</p> <p>汎用・生産用・業務用機械は、中国向けなど一部で回復の兆しが見えつつあるものの、企業の設備投資の先送りや見直しの動きも広がっており、弱い動きが続く見通し。</p>			
<p>4月 鉱工業生産指数 <2015年=100></p> <p>93.5 前年比 7.7% (14か月連続の低下)</p> <p>・汎用・生産用・業務用機械工業 前年比 30.4% (9か月連続の低下)</p> <p>・電子部品・デバイス工業 前年比 +59.7% (7か月連続の上昇)</p> <p>・輸送機械工業 前年比 28.2% (7か月連続の低下)</p> <p>・化学工業 前年比 14.3% (12か月連続の低下)</p>		<p>図表9 鉱工業生産指数 <前年比></p> <p>(資料) 三重県戦略企画部統計課「鉱工業生産指数」</p>	

企業倒産	悪化しつつある	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	
<p>現状 企業倒産は、悪化しつつある。</p> <p>5月の県下倒産状況(負債総額1,000万円以上)をみると、件数は3件(前年比 3件)と前年比で2か月連続の減少。また、負債総額は442百万円(同 59百万円)と、2か月振りの減少(図表10)。</p> <p>見通し 経済活動は再開しつつあるものの、県内でも新型コロナウイルスを直接的な原因とする倒産がホテル経営業や設備工事業、婦人服小売業などで発生しており、企業環境は厳しい状況が続く見通しにあることから、増勢が加速することが懸念される。</p>			
<p>5月 企業倒産</p> <p>倒産件数 3件 前年比 3件 (2か月連続の減少)</p> <p>負債総額 442百万円 前年比 59百万円 (2か月振りの減少)</p>		<p>図表10 倒産件数・負債総額 <負債総額1,000万円以上></p> <p>(資料) ㈱東京商工リサーチ津支店</p>	

設備投資	弱含み	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	
<p>現状 企業の設備投資は、弱含み。 4月の非居住用建築物着工床面積は、57千㎡(前年比 11.7%)と前年比で2か月連続の減少。5月の貨物車登録台数(除く軽)も、278台(同 34.9%)と前年比で8か月連続の減少(図表11)。</p> <p>見通し 道路交通網の整備が進み工場や倉庫などの立地の優位性が一層高まっているほか、四日市市が工場敷地内の緑地確保義務を緩和するなど企業誘致の促進が期待できる状況にあるものの、外出自粛の強まりや海外景気の失速を背景とした企業収益の悪化に伴い、当面弱含んで推移することが予想される。 なお、リサイクル大手のJFEエンジニアリング(東京)は、使用済みペットボトルを資源化する国内最大級の工場を津市に建設すると発表。8月に着工し、2021年9月の稼働を目指す。投資額は約100億円で、新規雇用者は80人程度を予定。</p>			
<p>4月 非居住用建築物着工床面積 57千㎡ 前年比 11.7% (2か月連続の減少)</p> <p>5月 貨物車登録台数 278台 前年比 34.9% (8か月連続の減少)</p>		<p>図表11 設備投資関連指標 < 前年比 ></p> <p>(資料)国土交通省「建築着工統計」、日本自動車販売協会連合会三重県支部「新車登録台数」、三重県戦略企画部統計課「鉱工業生産指数」</p>	

4. 個別部門の動向: 海外部門

輸出	大幅に減少している	基調判断の前月との比較	↘
		水準評価	
<p>現状 輸出は、大幅に減少している。 5月の四日市港通関輸出額は、437億円(前年比 35.8%)となり、前年比で6か月連続の減少(図表12)。落ち込み幅は2011年4月以来の大きさ。品目別にみると、乗用車(同 +122.8%)が増加したものの、石油製品(同 79.5%)や電気回路等の機器(同 44.2%)、自動車の部分品(同 60.9%)などが減少。</p> <p>見通し 足元の原油価格は1バレル40ドル前後と落ち着きを取り戻していることから、石油製品の落ち込みは緩和するとみられるものの、世界的な経済活動の停滞や米中貿易摩擦の再燃懸念などにより、輸出は弱い動きが続くことが予想される。</p>			
<p>5月 四日市港通関輸出額 437億円 前年比 35.8% (6か月連続の減少)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石油製品 26億円 前年比 79.5% (2か月振りの減少) ・有機化合物 40億円 前年比 9.1% (3か月連続の減少) ・電気回路等の機器 34億円 前年比 44.2% (6か月連続の減少) ・乗用車 65億円 前年比 +122.8% (3か月連続の増加) ・自動車の部分品 17億円 前年比 60.9% (2か月連続の減少) ・科学光学機器 7億円 前年比 54.0% (2か月連続の減少) 		<p>図表12 四日市港通関輸出額 < 前年比 ></p> <p>(資料)名古屋税関四日市支署「管内貿易概況」</p>	

5. 個別部門の動向: 公共部門

公共投資	弱含み	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	
<p>現状 公共投資は、弱含み。 5月の公共工事請負状況をみると、請負件数は前年比 +9.0%と2か月連続の増加。請負金額も同 +46.7%と2か月振りの増加(図表13)。企業庁において「大里浄水場中央監視制御装置」の大型工事があったほか、県土整備部の取扱件数が増加した影響によるもの。</p> <p>見通し 新型コロナウイルスの感染拡大に伴う公共事業の一時中断が懸念されるものの、東海環状自動車道などの道路関連の大型工事や、国が進める国土強靱化対策のための防災関連の工事が引き続き行われ、緩やかに持ち直す見通し。</p>			
<p>5月 公共投資 公共工事請負件数 170件 前年比 +9.0% (2か月連続の増加) 公共工事請負金額 126億円 前年比 +46.7% (2か月振りの増加)</p>		<p>図表13 公共工事請負金額</p> <p>(資料) 東日本建設業保証(株)三重支店 (年/月)</p>	

6. 個別部門の動向: その他

物価	弱めの動き	基調判断の前月との比較	↘
		水準評価	
<p>現状 物価は、弱めの動き。 5月の津市消費者物価指数(生鮮食品を除く)は前年比 0.3%と8か月振りに下落(図表14)。ガソリン代などの交通・通信(同 1.9%)の下落幅が拡大したほか、幼児教育・保育の無償化を受けた教育(同 5.6%)の下落も持続。</p> <p>見通し 政府の緊急事態宣言解除に伴い経済活動再開の動きが広がっているものの、自粛ムードの残存などによる消費の手控えが継続するとみられるほか、4月の原油安の影響が電気代やガス代に対して少し遅れて出てくるとみられ、弱めの動きが続く見通し。また、企業業績の悪化を受けた賃金の下落も長期にわたりサービス価格の下押し圧力となる可能性が高く、下落が長期化する恐れも。</p>			
<p>5月 消費者物価指数<生鮮食品を除く、2015年=100> 101.3 前年比 0.3% (8か月振りの下落) ・食料(生鮮食品を除く) 前年比 +0.2% (8か月連続の上昇) ・住居 前年比 ±0.0% (横這い) ・光熱・水道 前年比 1.0% (7か月振りの下落) ・交通・通信 前年比 1.9% (2か月連続の下落) ・教養・娯楽 前年比 +2.6% (24か月連続の上昇)</p>		<p>図表14 津市消費者物価指数<前年比></p> <p>(資料) 総務省「消費者物価指数」 (年/月)</p>	



1. 四日市市、FIXERと高度IT人材育成に関する連携協定を締結

5月23日、四日市市は、市内企業によるAIなどの新技術活用促進や、人材不足解消などにつなげることを目的とした、高度IT人材育成に関する連携協定をFIXER(東京都港区)と締結した。

同社は昨年6月に県の拠点を同市に移転。今年2月には子供向けのプログラミング教室や、エンジニア育成を目的とした講義を提供する「クラウドAIスクール四日市」を開校した。

今後は、高度なIT技術の活用能力習得による市民の就労機会拡大や、高度IT人材の供給による企業の生産性向上が期待される。

2. キオクシア四日市工場、第7製造棟を建設

5月27日、半導体大手のキオクシアホールディングス(株)(東京都港区)は四日市工場第7製造棟の建設を開始した。

今回新設する「第7製造棟」では、最先端3次元NDNAフラッシュメモリーを生産する。2022年夏の完成を目指し、投資総額は最大3,000億円規模となる見込み。

NDNA型フラッシュメモリーは、動画配信サービスを支えるデータセンター向けや、在宅勤務浸透によるパソコン向けで需要が高まっているほか、足元で販売が減速しているスマートフォンも、第5次世代通信(5G)サービスの本格化が回復を後押しする可能性がある。

3. 四日市市霞ヶ浦第3野球場が完成し、記念式典が開催

5月28日、来年の三重とこわか国体で成年男子の軟式野球が開催される、四日市市霞ヶ浦第3野球場の完成に伴い、記念式典が開催された。

本球場は2018年12月に着工し、今年4月20日に完成。総事業費は17億1,000万円。球場の規格は両翼100メートル、中堅120メートル。スタンド席は約1,000人、芝生スタンドには600人が座れるほか、エレベーターと車椅子用観覧席を8席を設置した。

本球場と隣接する第1野球場を使った国体の軟式野球は、来年9月26日から4日間で開催される予定。

景気指標

三十三総研
2020/6/30

< 三重県 >

(注) ()内は前年(同期(月))比 < >内は季節調整済前期(月)比

	2018年	2019年	2019年			2020年 1~3月	2020年				
			4~6月	7~9月	10~12月		1月	2月	3月	4月	5月
大型小売店販売額(全店)	(0.8)	(0.1)	(0.2)	(2.5)	(1.1)	(4.2)	(1.8)	(7.9)	(3.5)	(3.8)	
同(既存店)	(0.1)	(2.2)	(2.3)	(0.4)	(2.6)	(2.0)	(0.1)	(5.5)	(0.9)	(1.3)	
新車販売台数(軽を除く、台)	60,175	58,613	13,282	15,884	11,175	15,104	3,920	4,732	6,452	3,102	2,494
うち乗用車販売台数(台)	(0.5)	(2.6)	(2.0)	(9.2)	(22.8)	(17.3)	(16.8)	(21.0)	(14.8)	(24.0)	(42.3)
新車軽自動車販売台数(台)	53,322	51,181	11,646	13,685	9,810	13,291	3,479	4,178	5,634	2,638	2,144
うち乗用車販売台数(台)	(0.1)	(4.0)	(2.0)	(6.3)	(23.0)	(17.1)	(15.8)	(20.2)	(15.5)	(25.6)	(43.8)
新設住宅着工戸数(戸)	10,616	10,162	2,770	2,598	2,643	2,439	711	904	824	693	
県内施設延べ宿泊者数(千人泊)	8,901	8,796	2,166	2,509	2,086	1,477	561	513	404		
有効求人倍率(季調済)	1.71	1.66	1.70	1.64	1.56	1.39	1.44	1.39	1.34	1.29	
新規求人倍率(季調済)	2.43	2.40	2.43	2.33	2.25	2.06	2.01	2.09	2.09	1.76	
新規求人数(学卒・パート除く、人)	91,910	88,206	22,032	21,239	21,155	19,579	7,347	6,572	5,660	5,199	
名目賃金指数(調査産業計)	(0.6)	(0.6)	(0.1)	(2.8)	(0.3)	(2.0)	(1.8)	(1.2)	(3.0)		
実質賃金指数(同)	(1.8)	(0.4)	(0.6)	(3.1)	(0.4)	(1.7)	(1.4)	(1.0)	(2.6)		
所定外労働時間(同)	(5.2)	(1.7)	(2.2)	(0.0)	(5.0)	(5.8)	(4.3)	(4.9)	(8.0)		
常用雇用指数(同)	(1.0)	(0.1)	(0.4)	(0.1)	(0.4)	(1.1)	(1.1)	(1.6)	(0.5)		
鉱工業生産指数	(3.6)	(4.1)	(2.3)	(5.7)	(9.8)	(6.2)	(8.6)	(4.8)	(5.1)	(7.7)	
生産者製品在庫指数	-	-	< 1.8>	< 4.0>	< 0.4>	< 0.1>	< 1.0>	< 0.9>	< 8.0>	< 0.2>	
企業倒産件数(件)	67	68	21	12	23	24	11	9	4	7	3
(前年同期(月)比)(件)	(33)	(1)	(5)	(5)	(1)	(12)	(7)	(4)	(1)	(1)	(3)
非居住用建築物着工床面積(千㎡)	925	622	169	129	159	121	52	37	31	57	
	(27.9)	(32.8)	(29.9)	(44.6)	(44.0)	(27.0)	(7.7)	(48.3)	(65.8)	(11.7)	
県内外国貿易 純輸出(百万円)	934,412	74,975	198,697	163,945	200,116	187,537	74,839	65,496	47,202	30,096	19,578
輸出(百万円)	858,926	907,716	215,361	235,031	218,383	210,096	65,059	62,314	82,723	65,038	43,657
四日市港 輸出(百万円)	(6.8)	(5.7)	(3.6)	(5.8)	(1.4)	(12.1)	(17.0)	(19.1)	(1.0)	(18.5)	(36.1)
輸入(百万円)	836,407	836,047	201,636	197,888	213,201	195,476	59,949	62,300	73,227	59,459	43,657
	(4.2)	(0.0)	(0.7)	(7.7)	(3.6)	(12.5)	(23.3)	(10.2)	(3.4)	(18.8)	(35.8)
公共工事請負金額(億円)	2,170	1,793	516	585	362	312	81	59	173	188	126
	(2.8)	(17.4)	(40.5)	(5.3)	(5.0)	(5.2)	(12.4)	(55.9)	(64.3)	(33.7)	(46.7)
津市消費者物価指数	(1.2)	(0.2)	(0.7)	(0.3)	(0.2)	(0.3)	(0.4)	(0.2)	(0.2)	(0.1)	(0.1)
同(除く生鮮)	(0.9)	(0.4)	(0.8)	(0.0)	(0.3)	(0.4)	(0.6)	(0.4)	(0.2)	(0.1)	(0.3)

< 東海3県(三重・愛知・岐阜) >

	2018年	2019年	2019年			2020年 1~3月	2020年				
			4~6月	7~9月	10~12月		1月	2月	3月	4月	5月
大型小売店販売額(全店)	(1.2)	(1.1)	(1.6)	(2.3)	(2.7)	(1.0)	(0.1)	(3.4)	(5.8)	(12.6)	
同(既存店)	(0.4)	(1.1)	(0.8)	(1.6)	(3.0)	(1.9)	(0.4)	(2.6)	(7.4)	(15.4)	
新設住宅着工戸数(戸)	88,848	88,566	23,345	21,933	22,412	19,055	6,193	5,767	7,095	7,208	
	(4.1)	(0.3)	(1.5)	(8.6)	(3.2)	(8.7)	(3.4)	(16.5)	(6.1)	(15.5)	
有効求人倍率(季調済)	1.92	1.90	1.94	1.88	1.82	1.58	1.67	1.56	1.50	1.43	
新規求人倍率(季調済)	2.88	2.90	2.96	2.82	2.76	2.40	2.31	2.39	2.53	2.09	
鉱工業生産指数	(1.0)	(2.4)	(0.9)	(0.1)	(7.4)	(7.2)	(4.3)	(9.3)	(7.9)	(24.2)	
	-	-	< 0.3>	< 2.5>	< 4.8>	< 1.3>	< 2.5>	< 3.9>	< 1.4>	< 15.7>	
企業倒産件数(件)	833	762	184	201	205	201	81	52	68	84	22
(前年同期(月)比)(件)	(66)	(71)	(31)	(1)	(6)	(29)	(17)	(3)	(15)	(31)	(37)
域内外国貿易 純輸出(億円)	79,647	79,929	20,276	19,419	19,537	18,776	4,237	7,875	6,664	3,402	2,105
輸出(億円)	172,027	168,651	42,561	41,525	41,239	38,872	11,608	13,566	13,698	10,336	7,194
	(6.3)	(2.0)	(0.5)	(3.3)	(7.3)	(10.3)	(5.9)	(9.1)	(14.8)	(31.6)	(44.9)
輸入(億円)	92,379	88,722	22,285	22,105	21,702	20,096	7,371	5,691	7,034	6,934	5,088
	(13.1)	(4.0)	(3.3)	(7.7)	(12.5)	(11.2)	(4.6)	(20.0)	(9.7)	(4.6)	(37.2)

各指標における直近の数値